

京まち工房

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター



SUMMER
情報交流誌

no. 3

パートナーシップで進めるまちづくり

いきいき元気な交流都心・新たな京町家街の創造を目指して



京都市では、職住共存の都市再生まちづくりプラン「職住共存地区整備ガイドプラン」を策定・発表しました。このプランは、住民、企業、行政が連携するパートナーシップ型のまちづくりを基本的な枠組みとし、将来の目標像と取組方針、京都市とセンターが中心となって取り組む当面の内容をアクションプランとして示しています。

都心部では、伝統あるまちを継承し発展させていく地域のまちづくりや、特定の課題に取り組むテーマごとのまちづくりが数多く活発に活動をはじめています。今後、住まいや暮らし、営みを大切に、「活住続ける」ことによって新しい価値が生まれていく、活気ある職住共存のまちづくりの展開が一層期待できます。

異なる価値観や権利を有する人々が、地域において共存し、良い関係でまちづくりを進めるためには、地域の問題意識を共有し、目指すべき具体的な目標像を定め、解決していかなければならない課題を明らかにしていくことが必

要です。そして課題に対する具体的な取組を進めることによって、まちづくりが一步步前進していきます。

住民が主体となったまちづくりを、共に考え、行政は柔軟な枠組みを持って受け止めていく。センターはその橋渡しとなって、新たな時代のまちづくりを応援していきます。

◆ 職住共存のまちづくりのアクションプラン ◆

- ① 職住共存地区地域協働型地区計画の活用
- ② 町家保全・再生システムの開発
- ③ 道路の再生等による定住空間の整備
- ④ 魅力あるまちなみ景観の確保
- ⑤ 回遊空間の整備
- ⑥ 特色ある都心居住の推進
- ⑦ 街区再編等への対応
- ⑧ 防災性能の向上
- ⑨ 組織・ネットワークづくり
- ⑩ 都心型産業の育成と立地交流基盤の整備

あなたのまちづくり 拝見

豊かに生きる暮らしと文化 富有学区まちづくり委員会

富有学区の特徴

富有学区は、御所の南に位置し、緑と潤いに恵まれた学区です。家具屋街として有名な夷川商店街や個性的な店舗が軒を連ねる寺町商店街などともに、文化財や伝統的な祭礼など京都の町中にありながら暮らしと文化と職人的仕事事が息づく地域です。



ここでまちづくりの灯がともし始めたのは、平成6年からです。最初は京都市からの働きかけでした。富有小学校の統廃合の後、学区民の意識高揚や高齢化、少子化問題、それに加え住環境悪化など解決すべき問題は様々にあります。何とかしたい気持ちはあるのですが、最初はどのようにしてまちづくりを進めていったらいいのか意見がなかなかまとまりませんでした。

「わがまち富有」の発行

何度も何度も議論を重ねた結果、学区の生活習慣や伝統行事、それに学区が誇るべき文化財や人物など、共有できる情報を皆の力で入門書の形でまとめようということになりました。富有学区に今までから住んでいる人々にとっては、学区のまとまりにつながり、新しくこの「まち」に暮らそうとする人々にも、便利な読み物になるだろうということになりました。

ここからは一気加勢でした。みんなで企画を立て、土地の古老にヒアリングを行い、編集会議を何度も開き、ついに印刷にまでこぎ着けました。印刷費が足りなくて幾度もな委員会で検討を重ねましたが、これもよりよい冊子にしたいという皆さん方の熱意の賜物でした。

幸いこの冊子は、評判がよく、富有学区の同窓生が数10冊単位で買い求めることもあったそうです。富有学区の各家庭に配布したほかに、現在までに300部近くも売れたということです。

「この学区は、特徴がない地域だね」と自治連合会会長の森先生（歯医者さんです）は

謙遜されますが、この都心の真ん中で、三代がいつまでも住み続けるための方策を考えようという活動を全学区に展開するのは大変なエネルギーだと思います。

富有合唱隊

この活動の結果、学区のまとまりが一層よくなって、ちょっとしたきっかけで富有合唱隊が結成されました。平成8年の夏の区民コンサートでは、御所南小学校講堂の舞台の上に整列されたコーラス隊の中に、学区の馴染みの皆さん方の顔が並んで「琵琶湖周航の歌」を仲良く合唱されました。

その余勢を駆って、平成9年には「琵琶湖周航の歌」を記念して今津市で行われたコンクールに43人が繰り出したそうです。これもまちづくり活動の結果だと皆さん大喜びです。

普通の「まち」のまちづくり

まちづくりの取り組み方は様々です。色々なイベントを行ったり商業の活性化を目指すまちづくりもあれば、富有学区のような暮らしに根ざしたまちづくりもあっていいと思います。地域によってそのやり方はまさに千差万別で、富有のまちづくりも京都における一つの典型的なものといえるでしょう。

「わがまち富有」を作成した副産物として、この冊子が御所南小学校の副読本になった



り、冊子の編集者が小学生に昔の生活や習慣をテーマに講演したりと、小学校と富有学区との交流も進んでいるようです。

会長の一言

富有学区自治連合会会長
森 隆之助さん



この学区の運営は、誰かが強いリーダーシップで引っ張っていくのではなく、様々な特技を持った人たちが、自分の役割をきっちりと果たすことで成り立っている、いわばみんなが主役のまちづくりだと思います。



出典：「わがまち富有」

参加しました!

わくわくまちづくり交流会 in 夜須

住民参加でまちづくりを考える全国各地の関係者(行政、建築コンサルタント、学生等)が集い、情報交換を行う「わくわくまちづくり交流会」が、5月9日、10日に高知県の夜須町で開かれ、京都からも多数が参加。その模様をレポートします。



この全国交流会は、住民参加のまちづくり手法を学び、まちづくりネットワークを広げようと、4年前、同県の香北町で開かれたのが最初で、今回はそこで学んだ経験を生かし、県内で進められた10の事例が紹介されました。

赤岡町の絵金文化を核としたまちづくり(同町ゆかりの幕末の絵師・絵金の芝居絵屏風等を街のお宝として展開)、女性たちによる「あたたかな(タマゴの割れない)道づくり」検討会、高知市内全域で取り組まれている住民参加によるコミュニティ計画づくり、ワークショップの手法を学び地域に広めようといった取組など、それぞれ独自色を出したプレゼンテーションの後、各事例ブースでは参加者と取組関係者との熱心な議論が交わられていました。

夕刻、会場を浜辺に移し、土佐の大海原をバックに波打際会議。「市民参加で施設はできけれど、今後の維持・管理が問題になっている」「ワークショップは、参加しない大多数の住民の意見を反映できるのか」など各事例に対する意見や課題が抽出されました。



それを引き継いだ翌日のディスカッション。ワークショップは全員の意見の反映というより、合意形成のプロセスが重視されるもの。ワークショップを制度化し、行政の中に仕組みとして取り入れる時代では」と橋本大二郎知事。また、林泰義氏(計画技術研究所所長)は、「ワークショップには、みんなの意見を見事に料理し、すばらしいソースをかけてくれる腕のいい料理人が必要」と強調。延藤安弘氏(千葉大学工学部教授)は「むしろ、作る人と食べる人を分けない、みんなで味を付けていく鍋物のようなもの。楽しさの共有が持続のエネルギーとなる」、さらに「高知は風の人(地域の外から来て支援する人)のエネルギーを受け入れ、土の人(地域の住民)が豊かに育てた。これからも風の役割を期待する」と、地元デザイナー・梅原真氏に注文する一幕も。

最後に、「まちづくりの主体や方法、サポートのあり方、お金の仕組みなどを市民自らが構想し、こういう社会にしたいという将来像を描いてみる時間に来ているのでは」という林泰義氏の言葉で幕は閉じられました。

それにしても、まちづくりを料理にたとえるなど、前夜の「潮騒の宴」の影響?とも感じられる、実に美味で身のざっしり詰まった交流会でした。

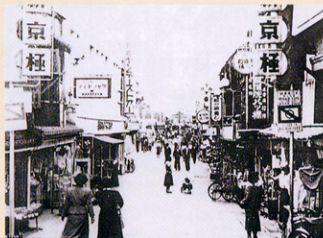
京のまちの今昔物語

新京極三条の今昔

「新京極下るは、京極の北の入り口でたら坂である。坂を降りて右廻りに寺町に出て三条に戻っても坂を上がることはない。このことは新京極の七不思議の一つである。これは河原町から寺町の間の三条通が堤防になっていたからである」とは、京都の歴史に詳しい田中泰彦さんのお話です。

新京極三条で古くからお土産を扱っているさくら井屋の奥さんは、「新京極の昔の楽しさは、劇場や観覧小屋があって、役者や俳優も通り掛り、楽しみが色々ありました。今は、楽しみ方が単調な気がします」とおっしゃっていました。

そういえば京都の特徴は、仕事も遊びも学問も、うまく暮らしと結びついていたところがありますが、近頃は楽しみ方も一色になって発想が乏しくなっているように思われます。



昭和初期(出典:京の町並み 桜小路朝川(西部編))



(現在)

「京のまちの今昔物語」では、皆さんがお持ちの昔の写真を切り口に、現在の京都の問題点を再確認できたらと思います。皆さんの自宅のアルバムや古い写真を探し出してぜひ投稿してください。

京町家まちづくり調査スタート

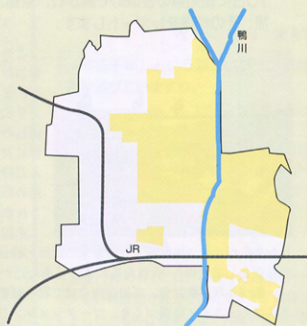
(現在の進捗状況) (5月末現在)

都心4区の全ての京町家を対象にした「京町家まちづくり調査」が、4月11日、約50名の調査員に加えて、多くの記者やテレビカメラが集まるにぎやかな雰囲気の中、本格的にスタートしました。

「日頃見慣れている町並みも、視点を変えて見るとまた違った趣があり、おもしろい」「終日歩き回って、へとへとに疲れた」など

様々な声・感想がありますが、現在のところ約300名のボランティア調査員の参加を得、順調に進んでいます。

今後より多くの方に参加していただき、自分たちの住む京都のまちについて考えるきっかけになるとともに、町家の保全・再生に向けた幅広いネットワーク形成の契機となることを願っています。



(凡例)

- 対象範囲
- 調査済

京都・学生まちづくりコンクール開催

～まちづくり 京都の学生 知恵くらべ～

京都市内の都心部や南部のモデル地区を対象に、大学生(ゼミ単位)が、地域の皆さんとの学習や交流を通じて、まちづくりの具体的な提案を行う「京都・学生まちづくりコンクール」を実施します。奮って応募ください。

■まちづくり提案部門(都心部・南部)

地域の将来ビジョンや地域の課題等に対する具体的提案。

■まちづくり交流部門(都心部)

地域まちづくり、地域コミュニティの活性化に貢献するイベント、交流催事、パフォーマンス等の実施。

〈モデル地区〉

都心部…明倫学区、富学区、西陣学区

南部…高度集積地区(十条通以南の油小路通沿道地区を中心とする南部地域)

〈応募資格〉

大学(短期大学含む)、大学院のゼミを基礎とするグループ。
学部、専攻は問いません。

〈スケジュール〉(予定)

- ・コンクール応募説明会
平成10年6月30日(火)午後6時30分～ 元龍池小学校講堂
- ・登録受付(研究・活動計画書提出) 7月1日～9月4日
- ・意見交換会 9月中旬
- ・現地学習会(まちづくり提案部門) 9月下旬～11月上旬
- ・地域交流会(まちづくり交流部門) 〃
- ・作品受付 11月24日～12月1日
- ・プレゼンテーション(作品成果発表) 12月上旬
- ・審査・表彰シンポジウム 12月中旬

※くわしくは、コンクール応募説明会(上記参照)で
インフォメーションします。ぜひご参加ください。

町家の保全・再生の事例

こだわりの町家新築…木造は日本文化

呉服商 安田忠生郎 (上京区大宮通寺之内上る)

町家の新築を決意し専門家に相談したものの、どうも合点が行かない、とうとう自分で材料の手配から職人の手配まで手がけてしまった安田さんの京都論です。

京都は、職住一致のまちです。我が家も敷地の奥の作業場に関係者が自由に入出入りするため、プライバシーがありませんでした。通路には、顔が映るくらいに磨かれた大黒柱があって、いつ人に見られても構わないように掃除をかせませんでした。実はこれ、お客様にわざと見せて、お客様の信頼を得ようとしていた訳です。こういう話は、京都の人でない方が理解できる。「ああ、京都の人は違うんだな、ここまでしっかりとしているんだ、これが町家の文化なんだ」と。

我が家の建替えを知った関東の上客から「ビルにするのでしたら、今後取り引きは打ち切ります。ビルの中で買物するために京都には行きません。ビルでしたら東京の方が立派です」と言われました。灯台下暗し、京都の人はそれに気づかないで、次々に古くからの町家を墓石のような建物に変えてしまいました。…

木造に惚れ込んだ安田さんのお宅はさながら材料と伝統的仕口の展示場のようです。通常よりも二周りも大きな大黒柱、大入や車知継と呼ばれる仕口、格天井、合掌造りの屋根、漆喰壁、神代杉などなど本物づくめですが、建築費は一般的な建物と大差なかったそうです。

奥さんもご満悦で「町家は暗い、寒いと言われますけど、天窓や中庭のおかげで明るいし、木製格子の影が時の流れを教えてくださいました。

床暖房のおかげで、冬でも自然な暖かさです。維持費は意外に安いですよ。

…木造の家は、手を掛けることで良くなっていく。これを善しとする文化が日本文化です…

＊仕口：柱や梁などの接合部やその方法のこと



10年度予算及び9年度決算の概要

センターの平成10年度事業計画及び収支予算(5月補正後)並びに平成9年度決算の概要を報告します。

〈平成10年度事業計画〉 (○は自主事業、●は受託事業)

啓発・情報提供	○景観・まちづくりシンポジウム ○ニュースレター発行
相 談	○まちづくり相談
学習・研修	○地域まちづくりセミナー ○人材養成講座 ●住民参加事業企画運営サポート
活動支援	○まちづくり専門家派遣 ○まちづくり活動助成 ●まちなみデザイン推進事業
交流促進	○町家ネットワークづくり ○学生まちづくりコンクール ○活動団体ホームページ作成
研究・開発	●町家保全・再生システムの開発 ●京都町家快適環境調査 ●島原・丹波口地区再生プロジェクト調査

〈平成10年度収支予算〉 (10年4月～11年3月 単位：千円)

(収入の部)	(支出の部)	
基本財産利息収入	事業費(自主事業費)	49,880
会費収入	(受託事業費)	26,936
補助金等収入	管理費	37,769
寄附金収入	予備費	300
事業収入	合 計	114,885
雑収入		
前期繰越収支差額		1,025
合 計		114,885

※会費収入は自主事業費に充当します。

〈平成9年度決算〉 (9年10月～10年3月 単位：千円)

(収入の部)	(支出の部)	
基本財産利息収入	事業費(自主事業費)	17,720
会費収入	(受託事業費)	2,481
(個人217口、団体20口)	管理費	19,728
補助金等収入	固定資産取得支出	50,000
雑収入	予備費	0
基本財産収入	合 計	89,929
合 計		90,954
	次期繰越収支差額	1,025

※会費収入は自主事業費に充当しました。

「まちづくり交流」

企業がまちづくりに関わるとき、どのような関わり方があるのでしょうか。
今回は、地域で起こったまちづくりへの機運に、いわゆる電線地中化をはじめとする環境調和型の電力供給設備で応える、関西電力京都支店の取組をご紹介します。

環境調和型設備の提供でまちづくりに参加

八坂通を例に

2年前、通りを横断する電線類がなくなり、東大路通から八坂の塔がはっきりと見えるようになったことで「電線類が地中化された通り」としてよく知られている東山区の八坂通。ここは、一部が京都市の伝統的建造物群保存地区に指定されています。数年前、「良好な都市環境を保つまちづくりをしたい」と地元から京都市に話があったことがきっかけで、



S字に曲げて目立たなくした電柱

「電線類についても、景観調和を考慮した改修工事をしてほしい」と要請があり、関西電力やNTTでも整備に向けた検討がされました。合わせて行政でも、歩道や石畳化

の整備が進められました。

関西電力京都支店お客様室の福田氏いわく「実はあの景観は、電線類の地中化（地中配電設備）だけで実現したのではないのです。もちろん地中化によって電線類の整備を行うこともできますが、変圧器や開閉器等の設置スペースが地上にある地中に必要なため、スペースの確保やそのための敷地提供をはじめとする地元の協力が欠かせません。また、一度提供のあった敷地を、持ち主が変わったから返す、ということでは安定した電力供給はできません。八坂通の場合は、自治会の協力や行政による地元との意見調整等を経て、通りを横断する電線（架空線）の配電ルートを変える、電柱を低くしたり町並みになじむ色に変える、また、S字に曲げて目立たなくするなどの方法で整備を行い、現在のような景観を生み出しました」。

企業を動かす地域ニーズ

「コスト面だけを考えれば、地上に電柱を立てて電線を張りめぐらす方法が最も合理的です。この通りは、昔ながらの商店街で住民の入れ替わりが少なく、自分たちのまちをこうしたい、という文化的な考え方が育ち共有

されたのでしょうか。それに対し、企業として何ができるのか、です。京都は古いまちですから、間口の狭さなど、他のまちにない特徴もありますし、地域ごとの雰囲気などもずいぶん違います。ですから、技術面だけでなく、ご相談いただいた地域の個別の実情に応じた提案をさせていただいています。電力会社としては、電力の安定供給が大前提です。そのうえで、合理的な配電方式やまちづくりに融合したデザインの採用といった環境調和型の設備を今後ともご提供できればと思っています」。

まちづくりに生きるパートナーシップ

市内には、八坂通のほか、四条通、先斗町、祇園新橋、嵯峨島居本町など、関西電力がまちづくりに関わった事例があります。

かつて、どこよりも早く住民自治を発達させ、まちを育ててきた京都。時代は変わっても、まちづくりに対し地域、企業、行政が必分の負担、協力を惜しまない、そんな心意気が活きるまちを生み、守り育て、まちに新たな歴史を加えるのでしょうか。



八坂通から八坂の塔を臨む

*伝統的建造物群保存地区：伝統的建造物群による歴史的環境を守るため指定している地区

関西電力株式会社京都支店
お客さま室 ☎344-784

ニュービジネスの動向

このコーナーでは、ビジネス界で新しく立ち上がった、もしくは企画段階の新発想のビジネスの動向についてインタビュによる紹介を行います。

西陣織工業組合

理事長 渡邊 隆夫氏

「絹織千年」という新しいブランドが注目されていますね。



いかにも西陣らしい名前でしょう。ジェイアール西日本伊勢丹と共同開発した西陣織製品です。和のエッセンスを盛り込みながら、現代生活に溶け込むようなデザインに仕上げられています。

先日、「母の日」に向けて作った13,000円のバックを49個限定で販売したんですが、ほぼ完売しました。ものは間違いない西陣の技術が織込んであるが、日常的に使っていただける。それが市場に評価されつつあるのではないのでしょうか。

なぜ伊勢丹と共同で製品開発を?

東京から京都に初めて進出する伊勢丹側は、地元に着きしる商売をしたいという意向を持っていました。西陣織工業組合も、新しい事業

まちづくり提案

■文化を受け継ぐ一つの提案 ふろしき研究会

日本人の暮らしに根づいた生活道具、風呂敷。包んだり荷を運ぶときに使ったり、床の上に敷いたりなど数多くの役割を担ってきました。しかし住宅も生活スタイルも欧米化してきている現在、これらの日本人が生んだ文化ともいえる風呂敷が忘れ去られようとしています。

文化を現代に受け継ぐこと。これは京都のまちが抱える課題と同じです。そこで、現代の生活の中で風呂敷を生かすことをテーマに活動を続けられている「ふろしき研究会」代表の森田知都子さんに話を伺いました。

ふろしき研究会は、①風呂敷の現代生活への活用、②風呂敷文化の継承、③利用することによる地球環境保全、④文化を見つめ新たな方向性を生み出すことを

《センター解説アワー》

一地区計画と京都市心のまちづくり

地区計画制度は、地域住民の生活に身近な範囲を単位として、道路、公園などの施設の配置や建築物の建て方などについて、地域の特性に応じてきめ細かく定めるまちづくりの計画です。

この制度の特徴は、地区計画案の策定に関して、地区内の土地所有者その他の利害関係者の意見を求めることとされている点で、既に定められた都市計画等の規制の枠内ではありますが、地区内の地権者や居住者のまわりの意向を公のルールとすることができるのが、通常の都市計画制度と異なっている点です。

地区計画の内容は、地区のまちづくりの方向性を指し示す「整備、開発及び保全に関する方針」と建築物等に対する具体的な制限を定める「地区整備計画」で成り立っています。

一地域協働型地区計画とは

京都市は、平成10年4月に「職住共存地区整備ガイドプラン」(1頁参照)を策定しましたが、この中で、この地域が目指す将来像を実現するための方法の一つとしてこの地区計画を提案しています。

まず、行政がリーダーシップを取って、地域住民との協働で地域のまちづくりの方針を定め、その後、元学区や街区あるいは町内単位で具体的な建築物等の制限を盛り込んだ「地区整備計画」を住民が主体的に話し合いの中で定めようとするものです。

センターでは、地域のまちづくりの方向性を定めるための話し合いや具体的なルール作りの方法など様々な支援を用意しています。

を展開したいと考え、双方の思いが一致したわけですが、途中で事業が頓挫しかけたこともあります。京都市の粘り強い働きかけもあって、市場の反応を見ながらちまちまつくっていきましよう、ということになったんです。よそでは扱っていない、地域の特徴あるものを身近に感じてもらうことで、地場産業の活性化が図れるのではないか。そんな思いで、一つの試みとして取り組んだわけです。



「母の日」に向けて限定販売されたバッグ

—「絹織千年」の新しさは？

西陣といふところは、織りの技術は世界のどこにも負けない高い水準を持っていますが、例えばバッグといふ完成品に仕上げるノウハウが少し足りない。そこで、そのヒントをデザイナーにもらいながら作業を進めるんです。商品を作る際、伊勢丹側は顧問デザイナーがまずコンセプトを提示し、組合側から参加している企業が試作品を提示する。机の上で話しをするのでなく、デザイナーが実際に西陣の現場を訪れ、議論を重ねて完成品に仕上げてます。現在、この事業に参加している企業は、960社ほどある組合員のうち約10社ですが、新しい流通チャンネルの確保が、新しい視点を持ったものづくりに

つながるという空気を感じます。もっと参加してもらいたいなあというのが正直なところですが、我こそは、と思うところが手を上げて広がっていけば、また新しい伝統となるだろうし、長い目で見ていきたいですね。

—今後の展開と抱負を。

昨年9月の伊勢丹オープン時には、9階に小さなコーナーを設けてスリッパ・ボート・カドクス・懐紙入れなどを販売していたのが、今年に入って、ハンドバッグ(2階)、ブラウス・Tシャツ・スカーフ(4階)、ネクタイ(6階)、リビング雑貨としてクッション・コースター・テーブルセンター等(8階)と、各階にコーナーを設け、現在約60品目が店頭に並んでいます。売り上げも徐々に伸びてきていますが、今の時点でこれが最終、といはいません。

しかしこれからは、高齢化、高失業率が迫る日本のような先進国でこそ、人をたくさん使う労働集約的な、まさに西陣織のような産業を活性化させることも必要ではないでしょうか。手間暇かけてつくるということが、生きがいや職の提供という視点で見直され、産業だけでなく



観光やまちづくりが複合的に活性化します。「絹織千年」が530年の歴史を持つ西陣の未来を先取りするようになるのではないかと思います。

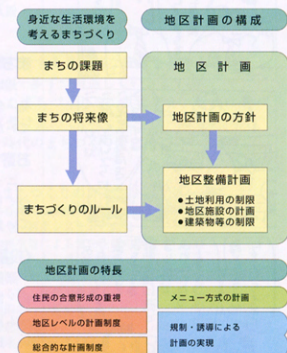
目的に1992年に創立されました。会員数は全国で230名で、独自の視点から日本の文化を問う『ふろしきトーク』というイベントの開催（年4回）、会報誌の発行、各種イベントへの参加と協力など京都をベースに全国的に活動を展開しています。

さらに、イベント等を通じて形成された学識経験者や他の研究会など様々な主体とのネットワークを生かし、風呂敷を通じて日本の文化全体を見つめ直し、京都から情報を発信しながら新しいネットワークの輪を広げていきます。また、風呂敷文化の衰退する原因を探り、生活者としての視点を大事にしながら現代の生活スタイルに見合った新しい「包み方」の提案を行うことで、京都の伝統産業を守ることにも寄与しています。

まちづくりにおいても、このようなスタンスを忘れずに京都らしさを受け継ぐことが大切ではないでしょうか。



お問い合わせ：「ふろしき研究会」
事務局：京都市北区紫野宮東町10-3-203
TEL 075-432-2722
代 表：森田知都子



私と京都



(財)京都市景観・まちづくりセンター 評議員
 栗山 裕子
 京都府建築士会常任理事古材バンクの会事務局長

京都の街に住まいづける

東山通を五条坂で市電を降りて西へ向かう、西陽を正面に受けて、汗を拭いながら下り坂をしばらく進んで北に折れる。お風呂屋の煙突を北に見て、出格子が続く家々の細い露地をぬけ切ったところに祖母の家はあった。

仕舞家のガラス戸を開けると、白い陽の中を歩いて来た眼には家の中は一瞬晦暗で、ひんやりした空気が湿った匂いがする。仏壇に焚いた香のかおりも混じった懐かしい匂い。

「よう来たなあ、暑かったやろ」優しい祖母が内の格子戸を開けながら迎えてくれる。仏壇の前に座って形ばかり手を合わせ、チーンとする子供供え物の一つをおくけない「ほんなにこの子はもう、お母ちゃんは元気にしたはるかか?」あれから30年以上の時を経て、一時期住んだその家に帰る。同じ引き戸を開け「たいてい!」「よく来たな」あの時の祖母と同じ姿で老いた母が迎えてくれる。そしてあのころと同じ匂い、ひんやりした空気。

ちょっと気持ちにイガイガが生じた時、「もらい物があるからおいで」と連絡が入った時、こちらの都合だけで帰って行く小さな家。そこにはいつも同じ速さで流れて来た時間がある。

センター語録

朝三暮四

この言葉は、猿使いが餌の果物を朝は3つで夕方はいつと云うたら、猿たちが怒り出したので、「それでは朝に4つ夕方に3つ」と言ったら今度は喜んでという中国の故事で、本質は変わらないのに目先の区別で争う愚かさの喩えです。

しかし、よく考えてみると、個人のニーズにきめこまに対応するなら、「朝三暮四」の受け取り方も「朝四暮三」の受け取り方もあっていいはず。

ところが、今までの行政では、これがなかなかできませんでした。「慎重に協議した結果、今後は「朝四暮三」制度にします。」というのが今までの行政だったのです。

総量は同じでも、時により人によって分配量に変化するのを適正に管理するのは並大抵のことではありません。マンパワーも必要です。だから、この管理は、行政任せにせずに、住民の実態を熟知する住民組織が行うのが一番いいのかも知れません。

パートナーシップのまちづくりとは、行政は自由度を認める制度をつくり、住民はできる範囲でこの管理運営に加わることでないでしょうか。そして「京まち工房」の役割は、両者が登場する面白いお話をたくさん作り出すことだと思います。(KT)

ぱおとあま湿布 Vol.3



センターからのお知らせ

賛助会員の募集 (平成10年度分)

京都のまちづくりに貢献したい! センターの活動を応援したい! そんなあなたの熱意をお待ちしています。

(特典)

- ・ニュースレター (年4回・季刊) の送付
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・セミナー等の参加料の会員割引

(年度会費)

個人1口: 5千円 団体1口: 5万円

(平成10年4月~平成11年3月)

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくり活動において、各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。

お寄せください ご投稿・ご意見

ニュースレターを盛り上げるご投稿や、京都のまちづくり、センターに対するご意見・ご提案をお待ちしています。

〈投稿の方法〉

原稿や写真等の資料とコーナー名・住所・氏名・年齢・電話番号・匿名希望の有無 (有りの場合はペンネーム) を明記し、「京まち工房」係までお送りください。封書はがき、又はFAXでも結構です。紙面の都合上、全てを掲載できないこともあります。

(財)京都市景観・まちづくりセンター 京まち工房 案内



〒604-0846 京都市中京区西京町通押小路下る金吹町452

(元池田小学校内1階南側)

TEL 075-212-4031

(支障・参加・入づくり)

FAX 075-212-4047

相談の受付等

月~金(祝日を除く)の9:00~17:00

(来所される場合はなるべく事前にお電話ください。)

なお、駐車場はありません。

ニュースレター 京まち工房 第3号 1998年6月
 編集・発行 (財)京都市景観・まちづくりセンター
 印刷 日本写真印刷株式会社